

公開実用 昭和50-56987



実用新案登録願

(1979)

昭和 50 年 9 月 25 日

特許庁長官 青 藤 英 雄 殿

1. 考案の名称 **電コネクタ用端子**

2. 考 案 者

住 所 **神奈川県横浜市中区戸塚町 3/16**
株式会社 日立製作所 戸塚工場内
 氏 名 **秋 本 正 実**

3. 実用新案登録出願人

住 所 **東京都千代田区丸の内一丁目3番1号**
(510) 株式会社 日立製作所
 氏 名 **代表者 吉 山 博 吉**

4. 代 理 人

住 所 **東京都港区西新橋1丁目6番14号 デトロイトビル**氏 名 **(5926) 弁理士 秋 本 正 実**

電話東京 5814414 番 代 表

5. 添 附 書 類 目 録



48-110762

1.....頁

1 明 細 書

考案の名称 雌コネクタ用端子

実用新案登録請求の範囲

5 帯状金属材料の両端部に接触用湾曲部を設け、その帯状金属材料の中央部より偏奇した位置で折畳むように曲成して前記湾曲部が設けられの2個の接触面を形成してなる雌コネクタ用端子。

考案の詳細な説明

本考案は雌コネクタの端子構造に関する。

10 通信機とか電算機などに用いられる従来の雌コネクタ端子の構造は、一般に雌コネクタ端子との接触部が1個所のものが多い。しかしICとかLSIなどの発達に伴なつて、その雌雄コネクタを高速に着脱したり、また、低レベルで使用したりする場合にコネクタ端子の接触の信頼性が大きな問題
15 となる。そこで雌雄コネクタ端子の接触面積を大きくするために、雌コネクタの端子の雄コネクタ端子との接触部を2個所設けてあるコネクタもあるが、その端子構造は複雑な形状を有するため
20 加工工程が複雑となりコスト的な問題がある。

公開実用 昭和50-56987

3 頁

1 本考案は単純な構造で接触面積が大きくしかも容易に作成できうる雌コネクタの端子を提供することを目的とする。

以下本考案を第1図ないし第3図に従つて説明する。

~~第1図は本考案を第1図ないし第3図に従つて説明する。~~ 第1図は本考案による雌コネクタ端子26字削除の斜視図であり、第2図は同側面図であり、第3図は本考案による雌コネクタ端子の展開平面図である。

本考案による雌コネクタ端子は、中央より偏倚した部分を狭巾部4とした帯状金属材料1の両端に接触用湾曲部2, 3を形成し、両湾曲部2, 3の雌コネクタ端子との接触面が同側でしかも段違いとなるように狭巾部4で折曲げたものである。下方の狭巾部4は、ケーブル接続の便宜のために設けたものである。

本考案による雌コネクタ端子と雄コネクタ端子との接触は、第4図に示す如く雌コネクタ端子5は雄コネクタ端子の前記湾曲部2ならびに湾曲部

.....頁

1 3に接触することになる。

以上述べた如く本考案による雌コネクタ端子は一枚の平板を曲折するだけの簡単な工程で容易に作成できるために大巾なコストダウンが図れ、しかも2個所の接触部を有するために接触時の信頼性は向上する。

図面の簡単な説明

第1図は本考案による雌コネクタ端子の一実施例を示す斜視図、第2図は同側面図、第3図は本考案による雌コネクタ端子の展延平面図、第4図は本考案による雌コネクタと雄コネクタの接触状態図である。

符 号 の 説 明

15	1	コネクタ端子
	2, 3	湾曲部
	4	挟巾部
	5	雌コネクタ端子

実用新案登録出願人 株式会社 日立製作所

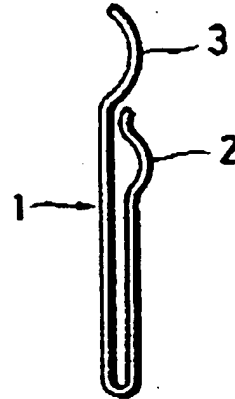
代理人 弁護士 秋 本 正 実

公開実用 昭和50-56987

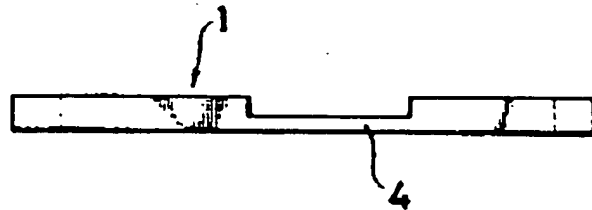
第 1 図



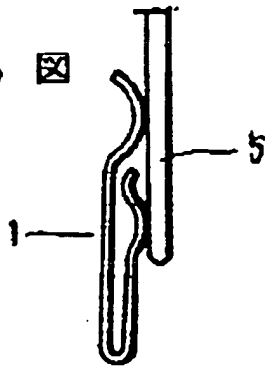
第 2 図



第 3 図



第 4 図



代理人 秋 本 正 實